

共通開講科目(アオッサ) 情報化社会の現在と未来／福井大学

科目名/提供大学名	情報化社会の現在と未来／福井大学
科目名(英文)	The present and the future of information society
対象学年	原則として、全学年。(但し、当該年度卒業予定者は除く)
開講時期	後期: 集中(2/11～2/14①②③④限目) AOSSA開講
単位数	2単位
科目区分	選択(教養教育科目群:「人間理解・言語コミュニケーション分野」)
授業形態・開講形態	講義・演習
担当教員名	【福井大学】岸 俊行, 大西将史, 田中志敬, 【仁愛大学】安彦智史, 【その他】ゲストティーチャー
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	【岸 俊行】t-kishi@u-fukui.ac.jp
概要	急速に進展している情報化社会について、関連する多方面の研究者、専門家、企業人を講師・ゲストティーチャーとし、現状及びその問題点について、より深い理解を得られるようにする。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	インターネットやSNSの進展により急速に進展している情報化社会の現状について多方面から理解を深めるとともに、その問題点をしっかりと把握できるようになること。この講義を通して受講生がより良い情報化社会を構築するために、ネットリテラシーやネット犯罪抑止のための啓発活動につながる契機になることが期待される。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会の現状を、多方面から理解するとともに、その問題点をしっかりと把握して、他人に説明することが出来る。 ・ネットリテラシーについてしっかりと理解を有するとともに、それに基づいた行動を自ら行うことが出来る。 ・情報化社会の今後について、自身のビジョンをしっかりと持つことが出来るとともに、より良い情報化社会を構築するために、講義で学んだ知識を適切に活用することが出来る。
授業計画・授業内容	<p>第1回: イントロダクション: 本講義の概要、情報化社会とはどんな社会だろう</p> <p>第2回: 情報化社会の現状を知る: 情報化社会で私たちの暮らしはどう変わるのか</p> <p>第3回: 情報化社会とパーソナライゼーション: ビッグデータが私たちの生活に与える影響</p> <p>第4回: 情報化社会と情報システム</p> <p>第5回: 情報化社会におけるソーシャルメディアを考える</p> <p>第6回: 情報化社会を支える基盤システム</p> <p>第7回: ネットワーク技術が引き起こす問題</p> <p>第8回: 情報化社会におけるネットリテラシー1</p> <p>第9回: 情報化社会におけるネットリテラシー2</p> <p>第10回: 子どもの発達から考える情報化社会</p> <p>第11回: ネットを利用したまちづくり, コミュニティづくり</p> <p>第12回: 情報化社会の心理学: 情報の洪水の中で生きる私たちの行動と心理</p> <p>第13回: 安全なネット社会の実現のために: 「e-ネットキャラバン」と総務省の施策</p> <p>第14回: 情報化社会における犯罪: サイバー空間における犯罪と脅威</p> <p>第15回: サイバー犯罪抑止のための教育, 啓発活動</p> <p>* シラバスの担当回は講師都合により変更することがある。</p>
授業方法	講義およびグループ学習(適宜、グループ学習を取り入れる)
キーワード	情報化社会, サイバー空間, 情報システム, ネットリテラシー, サイバー犯罪, SNS
教科書	特になし
参考書	講師(ゲストスピーカー)ごとに参考書等の指示があることがある。
評価方法・評価基準	講師(ゲストスピーカー)ごとにレポート課題を課す(A) 全講義終了後に最終レポートを課す(B) グループワーク等のグループ学習への取り組みの態度およびグループでの成果発表の内容(C) 上記、A+B+Cの合計点を最終評価とする。1/3以上の欠席者は不可とする。
関連科目	
履修の要件	集中講義のため、原則、期間中全て出席できる人(遅刻及び欠席はしない)
必要な事前・事後学習	事前学習・事後学習については、適宜、授業中に指示する
その他・注意事項	積極的に授業に参加すること 各自が現在の社会に問題意識をもって授業に臨むことが望ましい